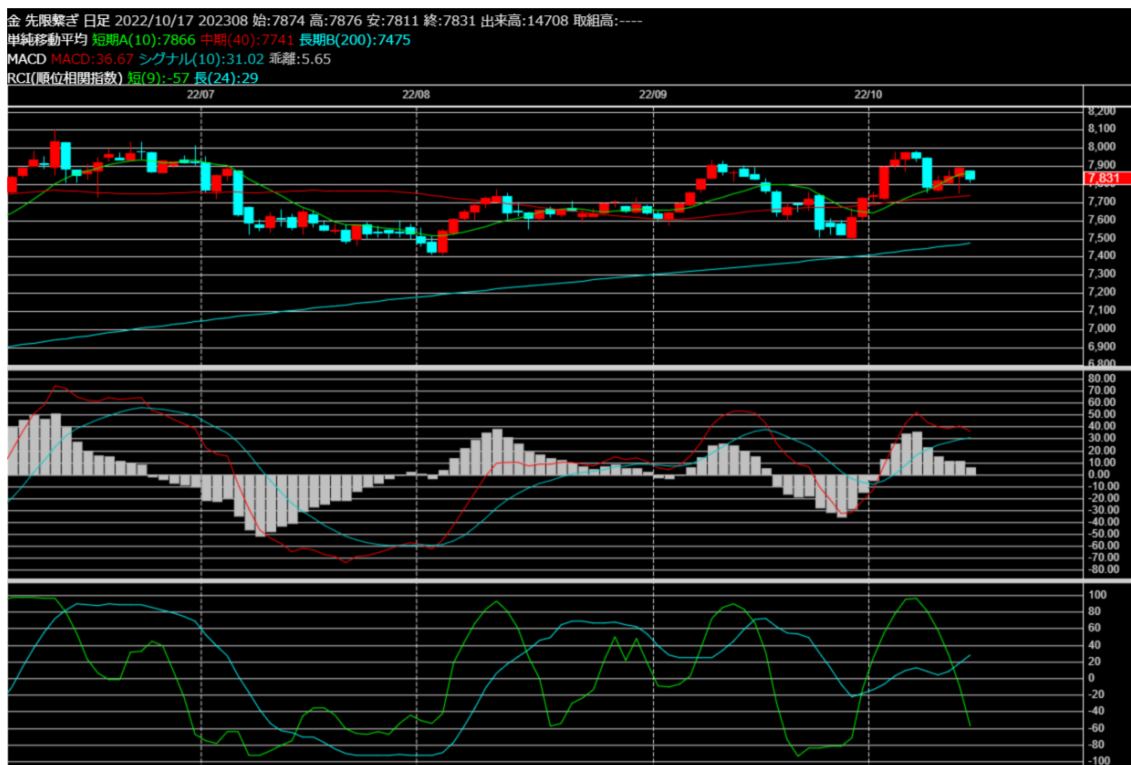


＜金標準先物、円買い介入があれば 7600 円へ・・・＞



(出所：オアシス)

FOMC 議事録では「インフレ抑制に向けた行動が少な過ぎた場合の代償は、やり過ぎた場合の代償よりも大きい可能性が高い」と多くの参加者が強調し、消費者物価指数（CPI）では前年比でエネルギーや食品を除くコア部門で 6.6%と 40 年ぶりの高水準を示した事から、11 月の FOMC で 4 回連続の 0.75%の利上げ実施が現実味を強めており、黒田日銀総裁の「緩和策継続」の発言も重なり、為替市場では円ドルが 1990 年以来の 148 円台を付けている。特に金利を生まない金は、10 年債の金利が 2010 年 4 月以来の 4%を超えるなど金利高の環境下で魅力が失われている。特にドル建て価格は今年の安値 1622.2 ドルに向けた下値追いを示しており、今週 19 日に発表される住宅着工件数が前月 157.5 万件から低下すると見られ注目される。

しかし円建て価格の金標準先物は、記載した様に 1990 年以来の 148 円台の円安効果を受けて 7900 円に向けた戻りを見せている。特に 8 月以降、ドル建て金は 1820 ドルから 1645 ドルまで下値追いを示しているが、円建て金標準先物は 7734 円から一時 7986 円を試すなど 250 円近く上昇を見せており、135 円から 148 円への 13 円の円安が支えとなっている。ただ財務省の介入発言もあり、円安が止まる場合は調整安に注意したい。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD では、MACD が切り下げながらシグナルが上昇し、弱気のクロスに注意したい。また RCI では短期が下げながら長期の切り上げを下回っており、40 日移動平均線が位置する 7741 円へ向けた下値追いに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,335,000 円(2022 年 10 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 10 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>